

## 鳥羽市総合教育会議 会議録

会議の名称	令和元年度第1回鳥羽市総合教育会議
開催日時	令和元年8月2日(月) 10:00~11:35
開催場所	鳥羽市民文化会館 第3小会議室
議題	1. 「教育の振興に関する施策の大綱」の改定に向けて 2. 英語教育の推進について 3. 小中学校の統合について 4. 支援を必要とする児童・生徒に関することについて 5. その他
会議資料	【資料1-1】教育に関する「大綱」について 【資料1-2】鳥羽市教育大綱 【資料2】鳥羽市教育振興基本計画 【資料9】平成31年度全国学力・学習状況調査の結果について(速報版) ※資料3~8、10及び11は個人情報等に関わる資料のため非掲載
公開・非公開の別	一部非公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 中村欣一郎、教育長 小竹篤、 教育委員 岡村忠夫、亀川聖子、江崎ユミ、中村和久
欠席委員	なし
事務局	[鳥羽市総務課]課長 中村、課長補佐 奥村

### 開会・市長あいさつ

#### 1. 「教育の振興に関する施策の大綱」の改定に向けて

総務課より教育大綱の概要及び次期計画期間の説明を、学校教育課長より教育振興基本計画の改定スケジュールの説明を、それぞれ資料に基づき行った。

##### ○総務課長

ポイントは2点。1点目は教育大綱及び教育振興基本計画の内容をどうしていくか意見をすり合わせていく必要がある点、2点目は教育振興基本計画を教育大綱に代えることができるので、教育大綱を別に作るかどうかという点になる。

2点目のほうから整理すると、現在の教育大綱は前市長、前教育長合意の元、教育振興基本計画の抜粋の形をもって教育大綱とする形をとっている。今回この点をどうしていくか、市長と教育長のご意見を伺いたい。

##### ○市長

大切なのは内容をしっかりつめていくこと。体裁にはこだわらない。

##### ○教育長

今年度のうちに、市長の考えを十分反映させた教育大綱の骨子を準備しておきたい。それに沿って来年度に教育振興基本計画を改定したい。

##### ○総務課長

これからの2か年で、教育大綱及び教育振興基本計画を策定していく中で、必要に応じて総合教育会議を開催し、市長と教育委員会の意見調整を行いながら進めていく方向とする。

##### ○総務課課長補佐

教育大綱の骨子を今年度で作ったとしても、あくまで次期教育大綱の始期はR3年度であること、またどういう体裁の教育大綱をどうやって作り上げていくかは、総務課と教育委員会事務局ですりあわせながら協議を進めていくこととしたい。

○総務課長

次に、1 点目の教育大綱及び教育振興基本計画の内容をどうしていくかについて、協議をお願いする。次期計画の中での大きな方針案等ご意見はあるか。

○教育委員

次期教育大綱を策定するうえで、市長は教育に関してはどのようなお考えがあるのかお聞かせいただきたい。また市議会において「〇〇日本一」というような宣言をしてはという提案もあったが、いかがか。

○市長

1 点目はかねてから申し上げている「自己肯定感」を持った子どもに育てたいという点。2 点目は、子どもの成長過程で、自分は鳥羽に何ができるのかを考えられる人材を育てたいという点。そのほか感性を育んだり、防災の面で地域において存在感を出すことができるような人材にしていきたいと考える。それを対外的にどのようなキャッチーな言葉で表現するかということになると思う。

○教育委員

言葉が漠然としており、具体的なものが見えてこない。どこの市町にもすり替えることができる言葉である。「鳥羽ならこうだなあ」「市長がそういうなら鳥羽はもっと輝けるなあ」と思わせる鳥羽ならではの言葉で作り上げる必要を感じる。子どもたちに向けた夢を語るような言葉がほしい。

○市長

例えば、委員ならどのような言葉を用いるのか。

○教育委員

例えば英語教育。子どもから大人まで、鳥羽のまちを英語で案内できるといい。教育や訓練が必要だが、教育委員会だけでは実現は無理。市を挙げてもっともっと盛り上げていくというようなことである。

○市長

英語教育を通じて人材を育て、観光振興等につなげる。また、海洋教育を通じて鳥羽の海から世界の海のことまで考えられる人を育てるということもあろうかと思うが、そういう「とっかかり」が鳥羽には他にもいっぱいあり、それが鳥羽の誇るべきところ。それらを広く活かしていくことがすばらしいのだと思っている。私のところでひとつの切り口に絞って具体化してお示しするのではなく、私のところでは大きな方向性を示し、各分野を担う方々の力で成し遂げていただくのがよい。

○教育委員

市長は、教育を通じて子どもたちがどんな大人になってくれるといいとお考えか？

○市長

幸福実感の高い大人になってもらいたい。いい条件で暮らしているのに幸福を感じない方がたくさんいるが、今あるものをきちんと受け入れ、それを活用してよい社会にしようという考え方に変わらないと、いつまでもないものねだりを繰り返すと思う。現状を受け入れてプラス方向に考えていく、今ある社会環境でいかにして自分がいい気持ちになれるか考えられる人になってもらいたい。

○教育委員

人口減少が続いているが、野球や英語、教育で子どもの郷土愛を育て、将来若者を地元に残るようにするにはどうしたらいいとお考えか。

○市長

鳥羽から若者が出ていくことを止めるのは難しい。外を見た人が鳥羽に帰ってくることを選ぶように、また I ターン希望者が鳥羽を選ぶように、我々がまちづくりに楽しく参画していることが大切なのだと思う。

○教育委員

これまでもそうだったかもしれないが、「まちづくり」という言葉が出てきたということは、今回改定していく教育振興基本計画もまちづくりの計画である「総合計画」とつながっていることが大切だと思う。またそういった計画を考える際には、鳥羽とゆるやかにつながっていただいている「関係人口」のことも視野に入れていくのが良いと思う。

○総務課長

このようなやりとりを重ねつつ、鳥羽ならではのキャッチーな言葉も探していくことが、次期教育大綱の策定につながっていくのだと思う。

○総務課課長補佐

教育大綱としてどのようなボリュームにまとめていくのか、中身の検討はトップダウンか積み上げか、今後、教育委員会事務局さんとすり合わせをして進めていく。

○教育長

教育大綱と教育振興基本計画を策定していく中で、教育大綱はあまり教育の細部にいたる必要はなく、市長としてここは是非という点を絞ってまとめていければよいと思う。

## 2. 英語教育の推進について

教育委員会学校教育課長及び教育長より、英語教育の推進にかかる方向性及び本市の現状の説明があった。

○教育委員

教員の英語指導力向上を進めることとともに、ネイティブの生きた英語をきくことが何よりだと思うので、ALT 配置の充実を図っていただきたい。

## 3. 小中学校の統合について

教育委員会総務課長より、この会議の前に開催した臨時教育委員会において、鏡浦小の安楽島小との統合について進めていく決定があったとの報告があった。また、教育長より平成 27 年度に策定した統合計画の進捗状況についての説明があった。

○教育長

統合計画策定時から方向性が変わってきた点として、「菅島小の鳥羽小との統合の継続協議」、「鏡浦小の安楽島小との統合」、「長岡中の鳥羽東中との統合」、「加茂中と鳥羽東中の学区再編」、「鳥羽小と加茂小の学区再編」などがある。

○市長

鏡浦小の安楽島小との統合は、そのように進めていただければよいと思う。

## 4. 支援を必要とする児童・生徒に関することについて

教育委員会学校教育課長より、様々な理由で支援を必要とする児童・生徒についての報告があった。

○教育委員

教員の過重労働が話題になって久しく、人員がぎりぎりの中で支援を必要とする児童・生徒の個別対応などプラスアルファの仕事を求められている。人材確保が必要と思う。

○教育長

全国的に虐待事件等が起こっているが、本市でも起こり得ない状況であり、危機感をもっている。

○教育委員

子育て支援室には、療育など、支援を必要とする子どものための保育の専門家がいるが、教育（小中学校）の専門家がないので配置が必要であると思う。

## 5. その他

教育委員会学校教育課長より、全国学力・学習状況調査における本市の状況がおおむね芳しい状況である旨報告があった。

事務局より、例年この会議は年 2 回程度の開催であるが、大綱の骨子を今年度で作ろうとなると、何回の会議開催が妥当か詰める必要が出てくるため、追ってスケジュールを報告する旨説明があった。